

造形活動を楽しみ、豊かに発想をする子を育てる学習指導の工夫

～第2学年の「造形遊び」の学習を通して～

沖縄市立越來小学校

教諭 中村 美和子

I テーマ設定の理由

今日の社会の国際化、情報化、価値観の多様化に加え、物質的な豊かさの中で子ども達は、テレビやインターネット、ゲームといったものに興味・関心がいき、自然との触れ合いや生活体験が不足してきている。戸外で体いっぱい遊んで遊ぶ子や自然物を取り入れた遊びの中から、自ら何かをつくり出す機会が少なくなってきた。

このような中で、学校に求められることは、子ども達がこれからの社会を生き抜く力を育てることが重要だと考えられている。それと同時に、芸術教育のあり方を考えた場合、創造することの楽しさを感じるとともに、思考・判断し、表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てることが大事であると言われている。

新学習指導要領の図画工作科の目標には、「感性を働かせながら」を新たに加え、『児童が、感性を働かせながら、つくり出す喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を育成すること。』とある。

領域「A 表現」では、「児童が進んで形や色、材料にかかわりながら、かいたりつくったりする造形活動を通して、発想や構想の能力、創造的な技能を高めるものである」としてある。

領域「B鑑賞」では、「感じたことを話したり、友だちの話を聞いたりする活動」とあり、他者とのかかわることで、互いの見方や考え方を深めていくとある。

低学年は、周りの人、目にした材料・物、環境などに体ごとにかかわって、楽しんだり、身近にあるいろいろな材料を並べたり、積んだり、

何かに見立てて遊んだり、対象と一体になって活動する時期である。

しかし、本学級の子どもの実態を見てみると、材料とのかかわりを楽しむ様子は見られるが、身近にある自然物や人工の材料などに積極的に触れ合ったり、発想豊かにつくったりして遊ぶ活動が少なくなっている。その結果、創造することの楽しさや喜びを十分に味わうことができず、身につけた力を実生活に生かすことができないように思う。そこで、新たな発想力・想像力を高める面から考えると、表現活動の楽しさを味わう場で活動意欲を高めることや指導の工夫の必要性を感じた。

また、作品をつくるための技術や技法面の指導については、計画時間などを気にして、教師主導の授業を展開し、子どもの自由な発想を引き出すことについて、上手くできなかったように思う。

その反省から、図画工作科の学習において、一人一人の自由な発想を引き出し、広げ、その子らしい表現活動の楽しさや喜びを味わわせていくことが、造形的な創造活動の基礎的な能力を培う上でも重要なことではないかと考えた。

そこで、本研究においては、第2学年の「造形遊び」の学習を通して、個々の発想や思いを引き出すことができるように、学習活動・学習指導の過程に焦点をあて、工夫改善を図る。又、表現する時の材料や基本的な技能が生かせるような表現活動を明らかにし、子ども達が興味・関心をもち、こんなふうに表現したいという思いがふくらむような教材選定・学習指導の

工夫をすれば、造形活動を楽しみ、豊かに発想をする子を育てることができるであろうと考え、本テーマを設定した。

II 目指す児童像

～造形活動を楽しみ、
豊かに発想をする子～



- 自分らしい表現を見つけていく子。
- 丁寧に最後まで仕上げていく子。
- 自分の表現に自信を持ち、図画工作科で身につけた力を生活に生かす子。

III 研究目標

造形活動を楽しみ、豊かに発想をする子を育てる学習指導の工夫について、第2学年の「造形遊び」の学習を通して実践的に検証する。

IV 研究仮説

基本仮説

図画工作科の「造形遊び」の学習指導において、材料や作品にかかわらせる工夫や、自信・意欲を高める支援を工夫することによって、豊かに発想をする子を育てることができるであろう。

V 研究構想図

次のページ

VI 研究内容

1 理論研究

【具体仮説1】

図画工作科の学習において、造形遊びの要素や学習活動・学習指導の工夫について理論研究することによって、指導の方向性が明らかになるであろう。

(1) 造形遊びの要素について

- ① 「豊かな発想」について

「発想」は、思いつき、ひらめき、考えなどとしてよく使われる言葉である。あらためて、図画工作科における「発想」についてまとめることにより、指導の方向性を明らかにすることとした。

平成20年に発行された小学校学習指導要領解説「図画工作編」では、造形的な創造活動の基礎的な能力の一つとして「発想や構想の能力」が挙げられている。

(造形的な創造活動の基礎的な能力)

発想や構想の能力	形や色、イメージなどを基に想像をふくらませたり、表現したいことを考えたり、計画を立てたりするなどの能力。
創造的な技能	材料や用具を用いたり、表現方法をつくりだしたりするなど、自分の思いを具体的に表現する能力。
鑑賞の能力	作品をつくったり見たりするときに働いているよさや美しさなどを感じ取る能力。

(小学校学習指導要領解説 図画工作編

平成20年 文部科学省より)

それぞれの能力は、児童が自己との対話を重ねながら、他者や社会、自然や鑑賞などの多様な関係の中で活動することによって培われる。

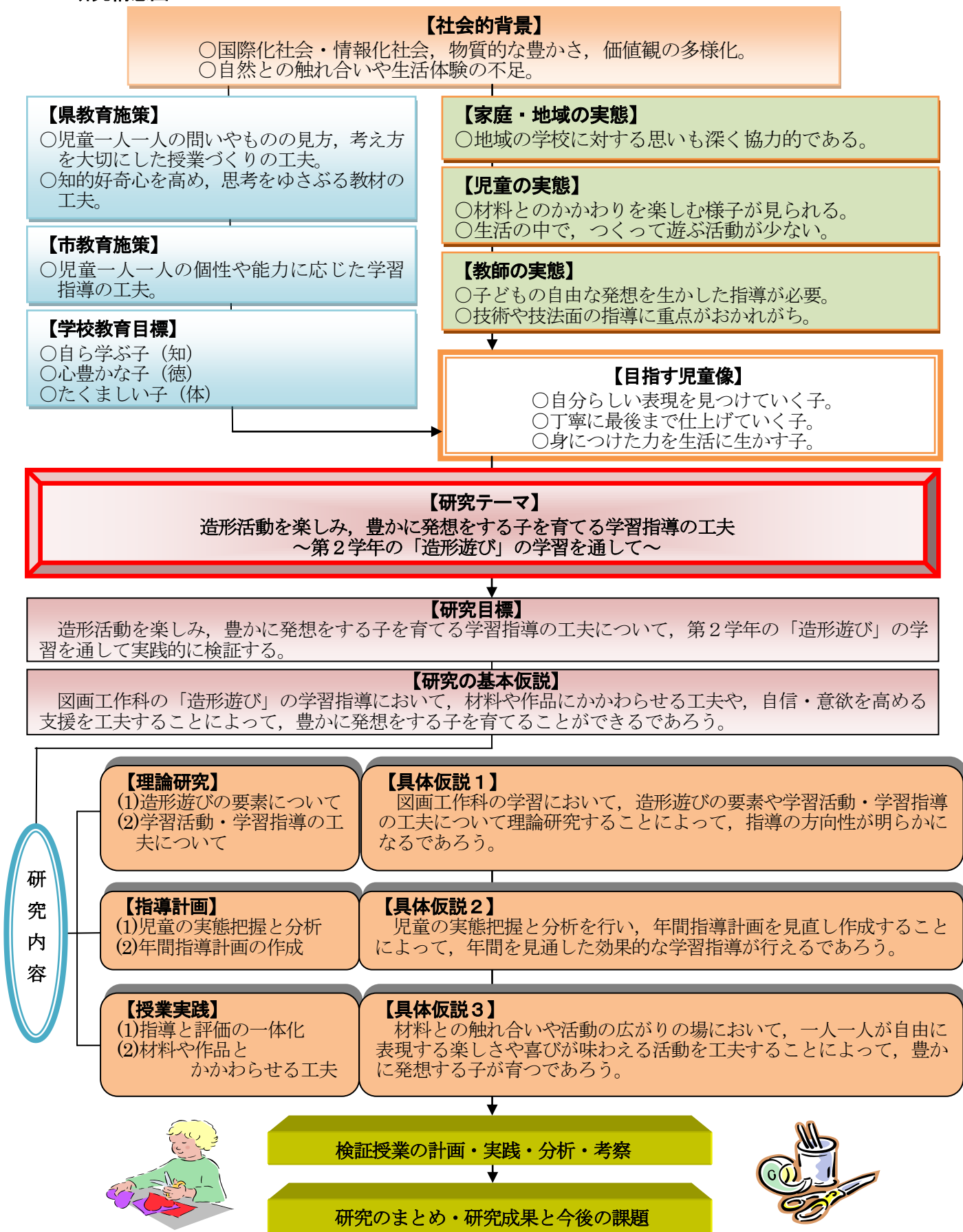
そこで、「発想」を広げる工夫として、「造形遊び」の学習の展開の中に、身近にあるいろいろな材料に触れる体験を取り入れることで、子ども達がのびのびと自由に発想や構想を広げるのにとっても有効だと考えた。

【豊かに発想をする子】(「A 表現」の造形活動)

「A 表現」は、児童が進んで形や色、材料などにかかわりながら、かいたりつくったりする造形活動を通して、発想や構想の能力、創造的な技能を高めるものである。

この造形活動は、大きく二つの側面に分けてとらえることができる。一つは、材料やその形や色などに働きかけることから始まる側面と、もう一つは、自分の表したいことを基に、これ

V 研究構想図



を実現していこうとする側面である。
ア（材料やその形や色などに働きかけることから始まる側面。）

一つ目の「造形活動」は、身近にある自然物や人工の材料、その形や色の特徴などから思い付いた造形活動を行うものである。児童は、材料に働きかけ、自分の感覚や行為などを通して形や色をとらえ、そこから生まれる自分なりのイメージを基に、思いのままに発想や構想を繰り返し、体全体を働かせながら創造的な技能などを発揮していく。これは、遊びの能動的な性格を学習として取り入れた活動で、これを「材料を基に造形遊びをする」とし「A 表現」の(1)で取り扱う。

イ（自分の表したいことを基に、これを実現していこうとする側面。）

二つ目の「造形活動」は、感じたこと、想像したこと、見たことなどから児童が表したいことを絵や立体、工作に表すものである。児童は、自分の表したいことを、形や色、イメージなどを手掛かりに、表し方を考えたり材料や用具を用いたりしながら作品に表していく。これは、幼いころから親しんでいる絵や粘土で表したり、あるいは用途のあるものをつくったりするなどの活動で、これを「表したいことを絵や立体、工作に表す」とし「A 表現」の(2)で取り扱う。

② 「造形遊び」について

ア 学習指導要領における造形遊び

「造形遊び」は「造形的な遊び」として昭和52年に、はじめて学習指導要領に登場し、30年以上の年月が流れた。今回の改訂では、「材料を基に造形遊びをする活動を通して、次の事項を指導する。」として、「造形遊び」の文言が学習指導要領に示された。

児童の遊びには、人が本来もつ生き生きした姿を見ることができる。遊びにおいて、児童は、自ら身の回りの世界に進んで働きかけ、いろいろと手がけながら、自分の思いを具体化するために必要な能力を発揮している。そこには心と

体を一つにして全身的にかかわりながら、多様な試みを繰り返し、成長していく姿がある。

このような遊びがもつ教育的な意義と創造的な性格に着目し、その特性を生かした造形活動が「材料を基に造形遊びをする」内容である。

大まかな内容は、児童が材料などに進んで働きかけ、自分の感覚や行為を通してとらえた形や色、イメージなどから、思いのままに発想や構想を繰り返し、経験や技能などを総合的に活用して造形遊びをすることである。学習活動としては、想像したことをかく、使うものをつくるなどの主題や内容があらかじめ決められたものではなく、児童が材料や場所などと出会い、それを手にするなどして、自分で目的を見付けて発展させていくことになる。

①材料や場所の活用

子ども達が、材料を手で触ったり加工したりする活動や、身のまわりの場所や環境を身体を使って親しむ活動を通して、材料や場所、身体の特性を発見し、その特性を生かした表現へと意欲を高めていく方向性を示している。

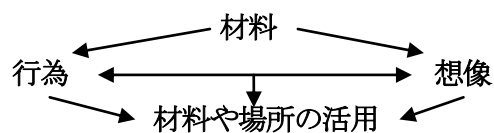


図 1

②行為の展開

粘土や木、紙などの材料を切ったり並べたり、絵の具を重ねたりする繰り返しや試しながらの行為を通して、表し方やつくり方を発見し、その技能を習得していく方向性を示している。

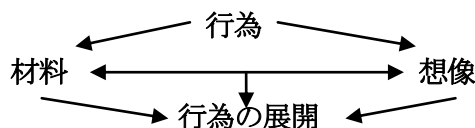


図 2

③想の拡充

美術作品の鑑賞、物語や音楽の鑑賞、風景の観賞体験をもとにして、表したいものやつくりたいものを発想し構想を広げ、材料や用具を選び、表現しながら構想を練り、表現を広げていく方向性を示している。

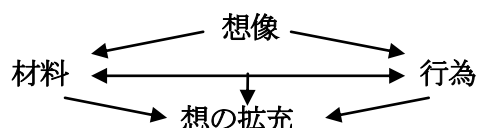


図3

図1～3

(平成17年 図画工作1・2下

教師用指導書上巻 研究編 日本文教出版)

イ 造形遊びと作品

「材料を基に造形遊びをする」は、結果的に作品になることもあるが、始めから作品をつくることを目的としないのに対して、「表したいことを絵や立体、工作に表す」は、およそのテーマや目的を基に作品をつくらうとすることから始まる。また、「材料を基に造形遊びをする」は、思い付くままに試みる自由さなどに遊びの特性を生かしたものである。

「材料を基に造形遊びをする」と「表したいことを絵や立体、工作に表す」は、この二つの側面から児童の資質や能力を育てようとするものであり、これらの活動を通して発想や構想の能力、創造的な技能などを育てることになる。それぞれの活動の特性を生かしながら指導を工夫する必要がある。その際、児童が表現をしながら常に鑑賞の能力を働かせていることに配慮する必要がある。

ウ 造形遊びと学年との関係

低学年	身の回りの材料を並べる、つなぐ、積むなど、体全体を働かせて楽しくつくること。
中学年	身近な材料や用具を組み合わせたり、場所などから発想したりしながらつくること。
高学年	場所の広さや形などの特徴も視野に入れ、周囲の様子を考えて構成したり、経験や技能などを総合的に生かしたりしてつくこと。ま

た、しだいに友人と話し合ったり目的を共有したりしてつくることができるようになること。

以上のように示されている「材料を基に造形遊びをする」内容は、単に遊ばせることが目的ではなく、進んで楽しむ意識をもたせながら、発想や構想、創造的な技能などの能力を育成する意図的な学習である。

エ 低学年における造形遊びの特徴と指導

低学年の時期は、土や粘土などの材料に体ごとかかわって楽しんだり、身近にあるいろいろな材料を並べたり、積んだり、何かに見立てて遊んだりする。そこには、進んで材料などに働きかけ、そこで見付けたことや感じたことを基に、思考や判断をし、自分の思いの実現を図ろうとする姿がある。指導に当たっては、広い床や校庭などの児童が十分に材料とかかわることのできる安全な場所の準備、児童が進んで造形活動を始めるような提案、一人一人の児童が発想を広げることができる時間の確保などを工夫する必要がある。

③ [共通事項] の内容について

新小学校学習指導要領では、新たに「共通事項」が設けられた。「共通事項」は、表現及び鑑賞の活動の中で、共通に働いている資質や能力であり、児童の活動を具体的にとらえ、造形的な創造活動の基礎的な能力を育てるための視点として新たに加わった事項である。

児童は、材料に触れて形の感じや質感をとらえたり、材料を見つめながら色の変化に気付いたりするなど、直観的に対象の特徴をとらえている。同時に対象や自分の行為などに対して自分なりのイメージをもっている。そして、これらを基に発想や構想、創造的な技能、鑑賞などの能力を働かせて、具体的な活動を行っている。このような、形や色などの特徴をとらえたり、イメージをもったりする能力は、表現及び鑑賞の活動の基になるとともに、対象からの情報を的確にとらえ、それを主体的に判断するコミュニケーション能力の基盤となるものであり、こ

の内容を〔共通事項〕とした。

〔共通事項〕の共通とは、「A 表現」と「B 鑑賞」の2領域及びその項目、事項の全てに共通するという意味である。同時に、造形への関心や意欲、態度、発想や構想、創造的な技能、鑑賞などの能力に共通して働くという意味である。主な内容は、自分の感覚や活動を基に形や色などの造形的な特徴をとらえること、及び、様々な事物や事象について自分なりのイメージをもつことである。「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導においては、〔共通事項〕がどのような場面にも含まれている事項としてとらえ、指導や評価を具体化する必要がある。

④ 「言語活動の充実」について

「B 鑑賞」の各学年の内容に「話したり、聞いたりする」、「話し合ったりする」などの学習活動を位置付け、「言語活動の充実」という観点からも鑑賞活動は重視される。形や色、直感的なイメージなどを通した言葉によらない表現や鑑賞の活動が、他の教科にはない図画工作（美術）科の独自のコミュニケーション活動である。ただ、言葉による表現・鑑賞と形や色を通した表現・鑑賞は排斥しあうものではない。子ども自身が必要に応じて選ぶメディア（手段）として、相乗的な効果を高めるように指導していく必要がある。

⑤ 「第1学年及び第2学年の学年目標と内容」 （2）について

（2）造形活動を楽しみ、豊かな発想をするなどして、体全体の感覚や技能などを働かせるようにする。

ア「造形活動を楽しみ」とは、このような時期の児童にとって、造形活動を楽しむことがそのまま資質や能力の育成につながることを示している。

イ「豊かな発想をする」とは、発想や構想の能力を十分に働かせることが豊かな造形活動を生み出すことを示している。

ウ「体全体の感覚や技能などを働かせる」とは、

自分の気持ちや感覚、技能などが一体になって創造的な技能が発揮されることを示している。

低学年の児童は、造形活動において、形や色、材料などに自ら働きかけ、表したいことを見つけ、それを表す方法を考えながら、また材料などに働きかけるという、行きつ戻りつするような活動をする特徴がある。そのような活動の過程において、児童は発想や構想、創造的な技能などの能力を身に付けることになる。

（2） 学習活動・学習指導の工夫について

① 「造形遊び」の活動内容

「A 表現」の（1）では、このような学習活動を通して、一人一人の資質や能力を十分に働かせ、造形的な創造活動の基礎的な能力を育てることになる。そこで、「活動を通して、次の事項を指導する」と示し、発想や構想の能力、創造的な技能を活動の対象や方法に沿って三つの事項ア、イ、ウを指導することとした。

アは、材料、場所などの活動の対象を示すとともに、児童が感じた形や色、イメージなどから、発想してつくるという活動の概要を示し、主に表現の始まりにおける発想や構想の能力に対応している。

イは、つくりだした形から新しい発想をしたり、つくりながら周囲の様子を考え合わせて構成したりするなどの活動の方法を示し、主に表現の過程における発想や構想の能力に対応している。

ウは、発想や構想したことを実現するために、体全体を働かしたり、材料や用具の経験や技能を総合的に生かしたりするなどの創造的な技能を働かせることを示している。

三つの事項とも、遊びのもつ創造的な性格や、つくり、つくりかえ、つくるといった連続的な過程を重視する観点から、文末を「つくること」と示している。このように「造形遊び」は、子ども達が手や体全体で材料から発想し、並べる、つなげるなどして造形活動を楽しみ、自ら活動をつくりだすことに意味がある。一人一人が材

料を基に、自由に発想を広げる造形遊びの授業を展開し、児童のもてる力、資質や能力が高まるように支援したい。

② 学習指導の手だて

ア 題材設定の工夫

(ア) 材料の特徴を生かした低学年の題材設定のポイントとして

「材料」は、題材を構成する最も基本的な要素である。様々な自然材や人工材をベースにして造形活動は営まれる。これらの身の回りにある多種多様な材料は、低学年の子どもが造形活動への興味や関心をもち、扱いやすい材料としてとらえることができる。また、多種多様な材料に、体全体でかかわることで、その特徴を十分感じ取り味わうことが大切である。材料体験から得た感覚や気持ちから、子どもは、自分なりの思い（「発想・構想」）をもち、広げや様々な操作や行為（「創造的な技能」）を生み出していく。つまり、材料を基点として「発想・構想の能力」や「創造的な技能」は、かたく結びついている。

また、「造形遊び」の題材は、主として材料から発したつくる活動であり、「絵や立体、工作」の題材は、感じたことや想像したことをもとに「表したいこと」を見付けて表現する活動であるが、多様な材料とのかかわりは、それらの題材を活動の根本で支えている。

低学年の題材設定のポイントとして、多種多様な材料にまず体全体でかかわり、その特徴を十分感じ取ることが挙げられる。

(イ) 操作や行為を生かした低学年の題材設定のポイントとして

「造形遊び」の題材設定では、体全体で、材料とのかかわり、そのなかで行われる「並べる、つなぐ、積む」などの操作や行為の活動を大切にしたい。これらの操作や行為の活動を十分にを行うために、材料や活動場所、用具についての十分な確保や準備を行う必要がある。

低学年の題材設定のポイントとして、体や手などの感覚を十分に働かせ材料や用具と一体となった操作や行為の活動に留意することが挙げられる。

(ウ) 子どものイメージや思いを生かした低学年の題材設定のポイントとして

学習指導要領では、造形活動に表れる子どもの思いやイメージについて、二つの側面からとらえている。

一つは、様々な材料に体ごとにかかわり、働きかけるなかで生まれてくる子どもの思いやイメージである。主に「造形遊び」では、こうしたイメージが扱われている。もう一つは、子どもの体験や関心から発した「感じたことや想像したこと」を表現する活動である。主として「絵や立体、工作」で扱われる。低学年の子どものイメージや思いは、材料にかかわることや様々な表し方を考えて表す活動自体とのかたく結びついている。材料の提示や見立て、また、形や色などの表し方の工夫の過程で、子どものイメージは、どんどん変化していく。こうしたことから、活動のプロセスの中で、新たな思いやイメージが広がり、深まることが、子どものイメージや思いを生かした低学年の題材を設定する上で大切なポイントとなる。

「鑑賞」においても、子どもは、自分たちの作品や材料を楽しく見ることから、思いを広げていく。さらに、友達とのかかわりのなかで、自分のイメージが広がっていくことも重視したい。

イ 場（準備）の工夫について

(ア) 「材料を基に」について

児童が自ら材料に働きかけ、そこから発想することを示している。

⑦材料に進んで働きかけ、表し方を見付けたり試したりするなどの過程を楽しむ活動。

⑧材料を並べたり、積んだりするなどの手や体全体を働かせる活動。

⑨材料の形や色を操作したり場所の特徴を活

かしたりするなどの構成的な活動。

(イ) 「造形遊び」の場について

「場」は材料や用具、人、時間、情報などの造形環境の一つであり、場の設定は、遊びを大きく左右する重要なポイントである。

「ここで活動すればきっとこんな遊びを思いつき、さらにこんなふうに展開していくであろう」というように子ども達の実態や活動のねらいに合わせて場を設定したい。また、造形遊びは、自由な雰囲気をつくることが大切である。

ウ 指導形態と教師の支援

どんな指導形態であっても、教師の支援が曖昧であってはその効果は半減してしまう。教師の支援は、当然事前に用意されていなくてはならないものであり、子ども達の造形活動を勇気づけ支えるものでなければならない。

そのためには、題材の基礎的・基本的な内容のみならず「つまずきの場やつまずきの様相」などを見通した上で発問・教材提示・技術指導など内容的にも準備を怠らないようにしなければならない。

(教師の支援情報)

(ア) 共感情報：「先生も同じ考えだよ」などと、子どもの表現や活動について共感し、子どものイメージの拡張や造形活動の後押しをする支援。

(イ) 自信情報：「すばらしい作品だね」などと、造形活動や表現を賞賛し、以後の活動や表現の意欲を高めたり新しい表現への挑戦意欲の向上を図ったりする支援。

(ウ) 示唆情報：「この表現があなたのイメージにぴったりだよ。他の部分も同じように表現してみたら」などと、活動の方向性や表現方法の選択について示唆し、表現意欲の向上を図る支援。

(エ) 未来情報：「このままつくっていけば、こんな感じの作品になると思うよ」などと、表現のゴールの姿を想起させたり、活動をダイナミックにさせたり、新しい

活動への見通しをもたせたりする支援。

これらの支援においては、単独であったり、複合したりして、子ども一人一人の実態に合った言葉づかいで子どもの表現の途中で行われる。

机間指導・個別指導の場合などに有効な支援である。教師が子どもに寄り添う形で支援が行われ、子どもにとっては「オンリー・ワン」の支援となり製作意欲を向上させる。

エ 発達段階と教師の支援

低学年では、造形意欲を高めると子ども達は一気につくりあげる。楽しかったこと、体験したことなどを平面や立体に表す心象表現では、教師の発する共感情報・自信情報が製作意欲を向上させる有効な方法である。材料からの発想が中心となる機能表現では、示唆情報・未来情報が有効である。子どもの表現のつまずきや停滞があったとき、示唆情報や未来情報は製作の視点をはっきりさせたり、表現のゴールをイメージさせたりする有効な支援である。

オ 指導形態と支援情報

「指導形態と支援情報」の各ゾーンにおける有効な支援情報を一覧にしてみると以下のようになる。

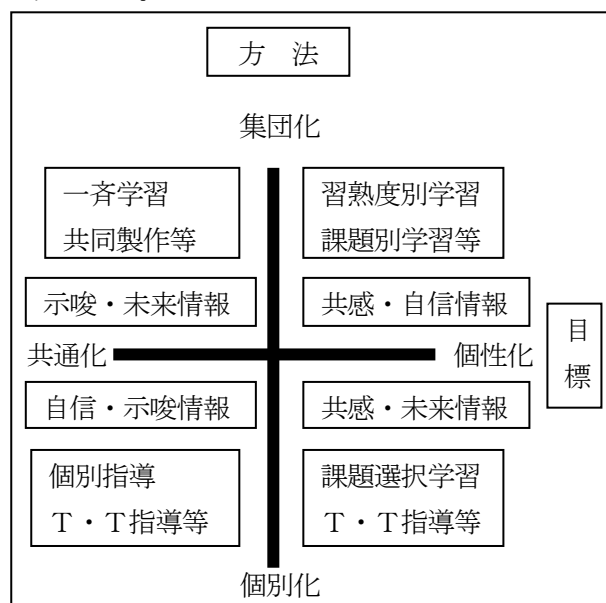


図 4

(平成 17 年図画工作 1・2 下
教師用指導書上巻 研究編 日本文教出版)

指導形態は、目標レベルと方法の両面から考える必要がある。

指導形態と教師の支援は密接な関係があり、有効な支援が存在すると考えられる。指導形態を変えても、教師の支援が十分に考えられていない場合、その指導形態は機能しなくなることを押さえておきたい。

2 指導計画

【具体仮説2】

児童の実態把握と分析を行い、年間指導計画を見直し作成することによって、年間を見通した効果的な学習指導が行えるであろう。

(1) 児童の実態把握と分析

① 調査の目的

「造形遊び」に関する実態を調査し、本研究の充実を図るための資料として役立てる。

② 調査方法

○質問紙法によるアンケート調査

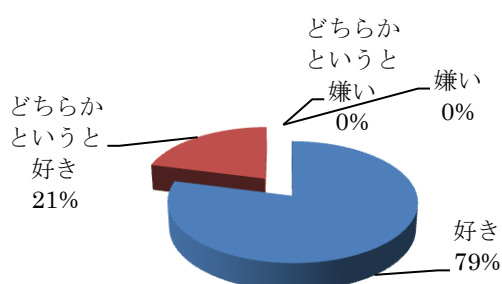
○調査日：平成21年5月14日（木）

○調査対象：越来小学校2年2組

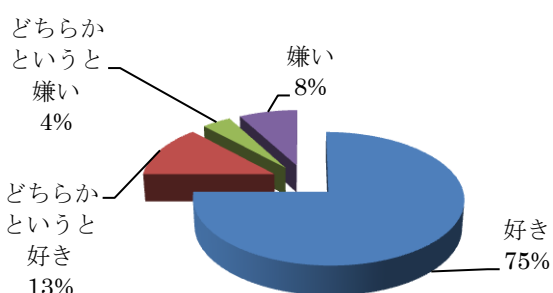
男子15名 女子9名 計24名

③ 調査結果と考察

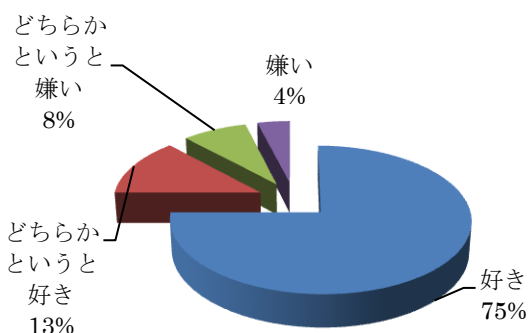
問1 図工の時間は好きですか。



問2 絵をかくのは好きですか。

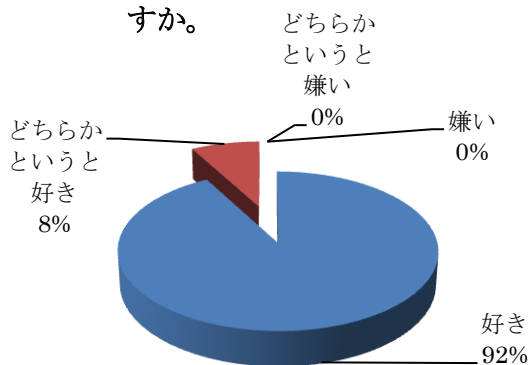


問3 粘土遊びは好きですか。



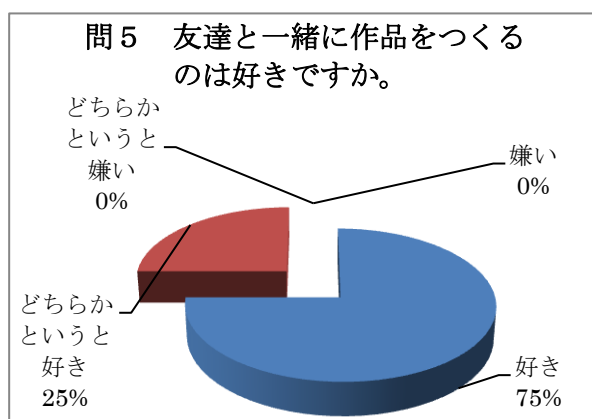
質問3では、24名中21名の児童が粘土遊びは「好き」「どちらかという好き」と答えている。残り3名の児童は、あまり好まない理由として、「粘土が爪に入ったりするから」「手を洗っても粘土がなかなかおちないし、爪の中に入れてお母さんに怒られたりするから」「何を作っていいのか悩む。それに、友達の商品を見ても難しそう。」などの理由を挙げている。これらの理由は、爪の衛生面や手洗いの仕方について声かけをすると、解決できるものと考えられる。

問4 作ったりすることは好きですか。

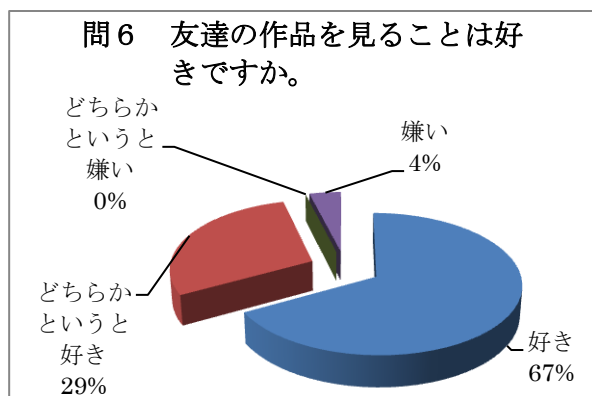


質問4では、すべての児童が「好き」「どちらかという好き」と答えている。工作が好き

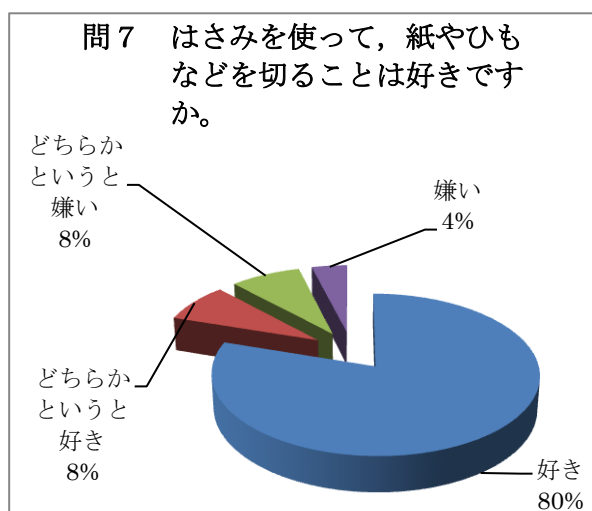
な児童が多い学級である。



質問5では、友達と一緒に作品をつくることは、男女とも好んでいる。友達と楽しくつくっている様子がうかがえる。

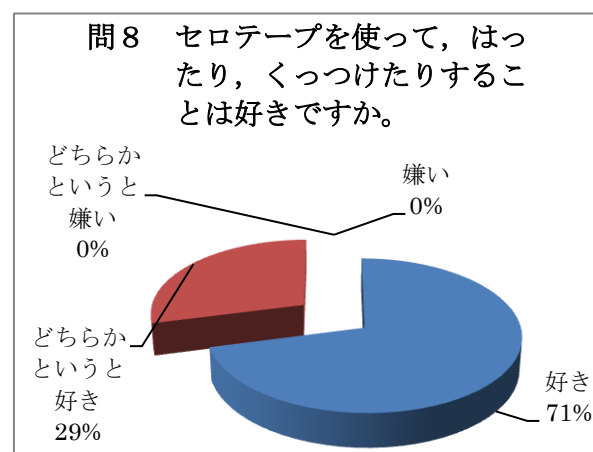


質問6では、「好き」「どちらかというとき好き」と答えた児童が23名に対し、「嫌い」と答えた児童が1名いる。理由としては、「他の子に真似をされるのがいやだから」と答えている。

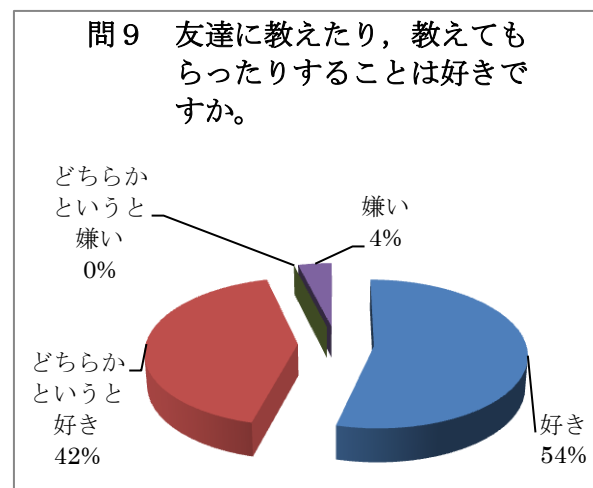


質問7では、はさみを使うことに抵抗を感じ

ていない児童が21名で、「どちらかというとき嫌い」「嫌い」と答えた児童が3名いる。理由としては、「はさみを使うと紙などがバラバラになり、片づけるのが面倒」「一年生のときに、指を切ったことがあるから怖い」「指を切ったりするかもしれないから怖い」などの理由を挙げている。解決法としては、はさみの正しい使い方や作業後の片づけ方を教えるとよいと考える。



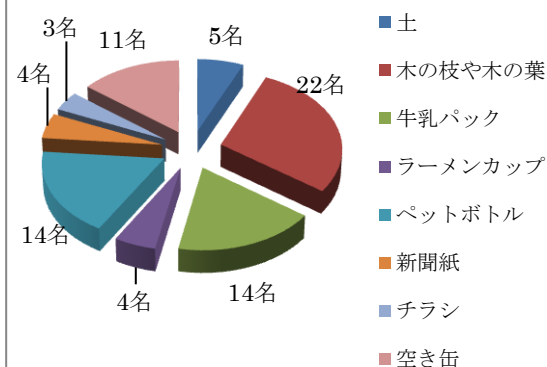
質問8では、セロテープをはったり、くっつけたりすることを、殆どの児童が好んでいるととらえることができる。



質問9では、「好き」「どちらかというとき好き」と答えた児童が多いが、「嫌い」と答えた児童が1名いる。理由としては、「粘土で大きいボールを作れるのが自慢で、友達が真似をするのが嫌だから」と答えている。

他教科や道徳の時間とのかかわりを意識した指導が必要だと感じた。

問10 図工で、これまでに使ったことのあるものは何ですか
(あてはまるものに○をつける) 複数回答



【その他】・粘土 ・カップ ・段ボール
・セロハンテープ ・紙袋 ・テープ
・ボンド ・紙 ・空き箱 ・絵の具

質問 10 では、一年生のときにお面作りで「木の枝や木の葉」を使ったと、多数の児童が答えている。次に、多数の児童が答えているのが、「牛乳パック」「ペットボトル」「空き缶」である。

【全体の考察】

アンケートの結果から以下の事項を研究・実践に生かしていく。

○友達とかかわりながら、図画工作科の時間を楽しむ。

○一人一人がのびのびと表現する喜びを味わうことができるようにする。

アンケートの結果から、子ども達は、材料集めの段階から意欲をもって取り組むことができ、材料を使って造形活動を楽しむことが好きである。そこで、友達とかかわり合うグループ活動や発表の機会を取り入れたりして、一人一人がのびのびと表現する喜びを味わうことができるような学習指導の手だてや支援を研究していく。

(2) 年間指導計画の作成

① 場所や環境が生きる年間指導計画の位置づけと題材化

材料や場所の確保とともに、いつ実施するかも重要である。落ち葉や木の実などの自然材などであれば年間指導計画にあらかじめ位置づけ、季節に応じた造形活動が可能になる。

しかしながら、重要なことは、図画工作科における子どもの資質や能力が十分に身につけられるように、前後に異なる材料で行うなど、資質や能力を育成する視点で題材化を図り、年間指導計画に位置づける必要がある。

② 第2学年における年間指導計画

○P-55～P-56 参照

3 授業実践

【具体仮説3】

材料との触れ合いや活動の広がりにおいて、一人一人が自由に表現する楽しさや喜びが味わえる活動を工夫することによって、豊かに発想する子が育つであろう。

(1) 指導と評価の一体化

① 図画工作科の評価の基本的な考え方

図画工作科に限らず、学習評価は「目標に準拠した評価」である。

評価は学習のためにあり、学習はその目標を実現するためにある。さらに評価は、学習指導の改善に生かされるものである。

評価の際には、PDCA のサイクルは、Plan 計画→Do 実践→Check 評価→Act 改善という、評価によって学習指導を継続的に工夫改善するという一連の過程を表すものである。学習指導の計画を立て、授業をし、目標に照らして子どもの学習状況を評価する。そして、その評価結果をもとに指導計画を見直し、改善していく。学習指導は、評価することによって終わるのではなく、評価に基づいて不断に見直し、工夫改善していくことが大切である。また、授業実践の過程で子どもの学習状況をとりえ、目標の実現が困難であると判断した場合には、その都度指導を工夫して行く必要がある。

このような工夫改善の手掛かりとなるのが、
観点別学習状況の評価である。

図画工作科の場合、観点は以下の四つから
成っている。

- 造形への関心・意欲・態度
- 発想や構想の能力
- 創造的な技能
- 鑑賞の能力

図画工作科での学習の評価は、出来上がった

作品を評価するものではない。子どもが表現や
鑑賞の活動においてどのような資質や能力を
発揮しているかをとらえるために作品を参照
することは考えられる。

四つの観点から子どもの学習状況、すなわち、
発揮している資質や能力を分析的に評価し、目
標の実現状況をとらえる。これを通して、学習
指導の工夫改善に生かしていくことが大切で
ある。

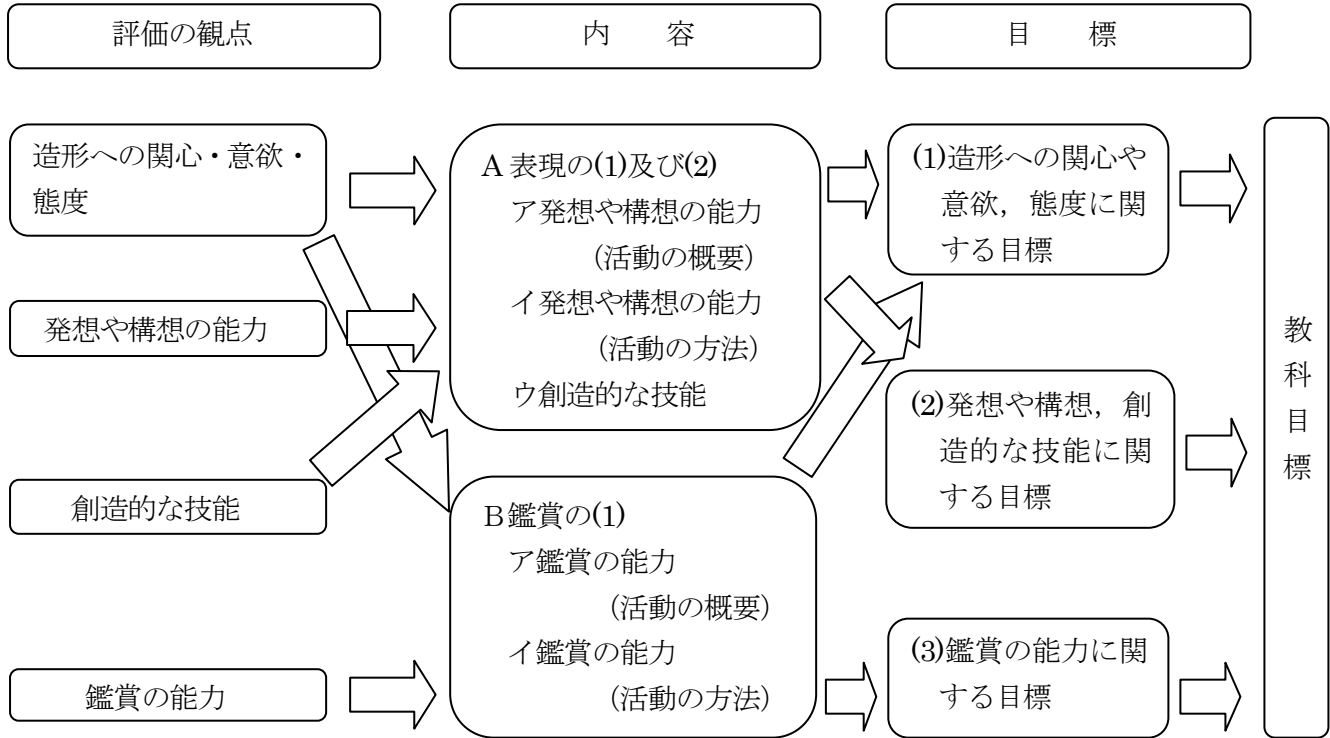


図 5

（平成 20 年告示学習指導要領解説 形・色・イメージ+これからの図画工作 日本文教出版）

② 評価の観点及びその趣旨(国立教育研究所 評価規準)

表 1

観 点	趣 旨
造形への関心・意欲・態度	自分の思いをもち、進んで表現や鑑賞の創造活動を楽しみ、つくりだす喜びを味わおうとする。
発想や構想の能力	感じたことや考えたことなどをもとに、想像力を働かせながら自分らしい発想をし、よさや美しさなどを考え、豊かな表現を構想する。
創造的な技能	表したい思いや意図に応じて創造的な技能を働かせたり、造形感覚を生かしたりしながら表し方を工夫する。

鑑賞の能力	造形作品などに関心や親しみを持ち、そのよさや美しさなどを感じ取ったり、味わったりする。
-------	---

③ 学年別の評価の観点の趣旨（国立教育研究所 評価規準）

表 2

学年 観点	第 1 学年及び第 2 学年	第 3 学年及び第 4 学年	第 5 学年及び第 6 学年
造形への 関心・意欲・態度	表したいこと、つくりたいものを自分の表し方でつくりだすことやつくったものなどを見ることに関心を持ち、進んで造形表現活動を楽しもうとする。	自分の思いを表す体験を深めることに関心をもつことやつくったものなどに関心をもって見るなど、進んで造形表現活動を楽しみ、その喜びを味わおうとする。	自分の思いを持ち、造形的な能力を働かせるとともに、自らつくりだすことや美しさなどを感じ取ることなど造形表現活動を積極的に楽しみ、その喜びを味わおうとする。
発想や構想の能力	感じたことなどをもとに想像力を働かせ、表したいことを見付け、その思いをふくらませながら表したり、つくり方を考えたりする。	見たことや感じたことなどをもとに想像力を働かせ、豊かな発想をしたり、つくりたいものの美しさや用途を考えるなど構想したりする。	見たことや感じたことなどをもとに想像力を働かせ、主題の表し方など自分らしい表現の構想をしたり、デザインの能力を働かせて、つくりたいものの意図や美しさを考えるなど豊かな構想をしたりする。
創造的な技能	かいたり、つくったりしながら、思いのままに体全体の感覚や技能を働かせる。	手を十分に働かせたり、体全体の感覚を生かしたりしながら、つくりだす能力などを働かせて、自分なりの技能や表し方を工夫する。	表したい意図や周りの様子に関連付けながら、創造的な技能を働かせたり、造形感覚を生かしたりして、表し方を工夫する。
鑑賞の能力	かいたり、つくったりしたものの造形的な面白さなどに気付いたりして、楽しく見る。	自分たちの作品や身近にある作品などのよさや美しさ、感じの違いなどに関心をもって見る。	造形作品などに親しみ、その美しさなどを感じたり、表し方のよさを感じ取ったり、味わったりする。

（表 1～2 平成 17 年 図画工作 1・2 下 教師用指導書上巻 研究編 日本文教出版）

④ 第 1 学年及び第 2 学年 A 表現（1）の評価規準

内容	観点（趣旨）	学年別の観点の趣旨	内容のまとめりごとの評価基準とその具体例
A 表現 (1)	（造形への関心・意欲・態度） 自分の思いを持ち、進んで表現や鑑賞の創造活動を楽しみ、つくりだす喜びを味わおうとする。	表したいこと、つくりたいものを自分の表し方でつくりだすことや、つくったものなどを見ることに関心を持ち、進んで造形表現活動を楽しもうとする。	【内容のまとめりごとの評価基準】 身近な自然物や人工の材料の形や色などに関心を持ち、体全体を働かせ、それらに働きかけ（表現）、働きを受け（鑑賞）ながら、自分の表し方でつくりだすことを楽しもうとする。 【内容のまとめりごとの評価基準の具体例】 ・身近な自然物や人工の材料の形や色に関心をもっている。 ・材料や形の色などの美しさや面白さ、不思議さなどの特徴を感じ取り、それらに関心をもっている。 ・材料を選んで手にしながら、形や手触り、重さなどを楽しむなど、材料に働きかけ、かわること自体を楽しもうとする。

			・もてる力を働かせ、いろいろ試すなど思いのままに進める造形活動の楽しさを味わおうとする。 ・興味や関心を満足させ、次の活動に移るなど、造形活動の過程を楽しもうとする。
(発想や構想の能力) 感じたことや考えたことなどをもとに、想像力を働かせながら自分らしい発想をし、よさや美しさなどを考え、豊かな表現を構想する。	感じたことなどをもとに想像力を働かせ、表したいことを見付け、その思いをふくらませながら表したり、つくり方を考えたりする。	【内容のまとまりごとの評価規準】 材料をもとに、材料の形や色などの特徴に気付き、感じたことなどから思いをふくらませ、活動しながら新たなアイデアを思い付けたり、表し方を考えたりする。 【内容のまとまりごとの評価規準の具体例】 ・知っていることや表し方など想像力によって、並べる、つなぐ、積むなどして思いをふくらませる。 ・材料の形や色などの特徴から、使うところやさらにしたいことなどを思い付く。 ・活動しながら思い付き、初めの形を変え、別の材料を付け加えて新たに作りだすなど表し方を考える。 ・材料の形や色などの美しさや面白さ、不思議な感じなどの特徴に気付いたり、扱う材料から想像を広げ、“この材料を、ここに使う”など子どもらしい想像を広げる。 ・友人とともに、楽しい造形活動を思い付く。	
(創造的な技能) 表したい思いや意図に応じて創造的な技能を働かせたり、造形感覚を生かしたりしながら表し方を工夫する。	かいたり、つくったりしながら、思いのままに体全体の感覚や技能を働かせる。	【内容のまとまりごとの評価規準】 材料を並べる、つなぐ、積むなど思い付いたことを試し、手や体全体を思いのままに働かせ、体全体の感覚で感じ取りながら、造形的な技能を働かせる。 【内容のまとまりごとの評価規準の具体例】 ・思い付いた方法を試したり、材料の扱い方を初めて試したりする。 ・造形体験をもとに、新たな試みをしたり自分の表し方を確かめたり、広げたりする。 ・材料を自ら選び、高く積む、床に広げてつなぐ、並べるなど体全体を働かせる。 ・“ここにもかいてみたい” “もっとなごう”など思い付くことを意のままに表す。 ・材料の大きい感じ、表し方の楽しい感じ、何かに見える形の感じなど体全体で感じ取り活動する。	

表3

(図画工作の指導と評価 2006年「内容のまとまりごとの評価規準とその具体例一覧」より 東洋館出版社)

⑤ 評価計画

診断的評価、形成的評価、総括的評価に分け、指導内容に応じた評価の観点を設定する。評価の方法としては、児童の自己評価や相互評価、観察法、ワークシートの記入内容などを活用していく。

⑥ 自己評価の工夫

毎時間、ワークシートを活用し、自分の

振り返りと気持ちを知らせることで、次時への学習に期待をもてるような自己評価（ワークシート）を行わせる。

そこで、教師の意図として、ワークシートの作成・実施にあたっては、次の事項に気をつけた。

ア 児童の負担にならないように、評価項目を4つに絞った。

イ 時間を費やさないためにもできるだけシ

ンプルにし、児童の活動の妨げにならないようなワークシートにした。

「国工がくしゅうカード」 『ひかりの おくりもの』

2年 組 名まえ

できた ◎

どちらかというときできなかった △

どちらかというときできた ○

できなかった ×

月日	◎きょうのがくしゅうはどうでしたか？
	☆たのしくとりくむことができた。 ()
	☆いろいろなかたちをかんだ。 ()
	☆ともだちとなかよくかつどうできた。 ()
	☆だんボールカッターをあんぜんにつかった。 ()
	◎先生に、きょうのがくしゅうでくふうしたところやがんばったところをおしえてね。 ^o^
月	
日	



⑦ 教師による評価記録簿の作成

毎時間、評価できるよう4つの観点で評価を作成する。4つの項目の視点で、各項目の評価の規準を3・2・1に決める。

「がんばろう」の児童については、支援をしていくよう手だてを考えていく。

《評価記録簿》

		よい 3 ふつう 2 がんばろう 1			
第4次	「ひかりのおくりもの」 (2時間目)	関・意・態	発想・構想	創造的な技能	鑑賞の能力
		○光や影を使って、自分なりに楽しく活動しようとしている。	○光のもつ特徴を生かして、つくりたいものを考えている。	○自分の思いにあわせて材料を切ったり、接着しながら、つくっている。	○いろいろな場所に光や影を写して、その形や色の面白さ、変化に気づき、楽しんでいる。
番号	名前				
1		3		2	
2		3		3	
3		3		3	

Ⅶ 指導の実際

1 指導計画（「材料を基に造形遊びをする」「表したいことを絵や立体、工作に表す」）

次	時間	題材名	主な学習指導	支 援
1	1時間 5/20 (水)	「くるくる チョッキン」 「はさみを使って、くるくる 上手に切れるよ。どのくらい 長くなるかな～」	○はさみ、セロテープの安全な使い方について知る。 写真	○はさみの使い方を知り、はさみを持つ手、紙を持つ手を上手に使い、線に沿って切るように知らせる。
2	2時間 6/3 (水)	材料を基に造形遊びをする かみをつないでつないで 「どんどん できるよ」	○「つなぐ」楽しさを十分に味わう。 ○切った新聞紙をつないで道をつくり、思いをふくらませ、町をつくる。 ○つくった乗り物を走らせたり、話し合ったりして全身で活動を楽しむ。 写真 写真	○「造形への関心・意欲・態度」を見取ったり、読み取ったりして認め、ほめ、評価する。 写真 A 表現（1）ウ

3	2時間 6/12 (金)	表 したいことを絵や立体・工作に表す	かみをつかって 「いろいろ モンスター」	○折り紙で「はり絵」にするモンスターのつくり方を知る。 ○一つつくってみて、できたら、友達の作品を見ながら、自由にどんどんつくる。 ○できた作品に題をつけ、みんなで鑑賞する。 写真 どんなモンスターになるかな・・・。 写真 「できた～！」 おもしろい形になったよ。	○二つ折りにした紙の背の方を切り取ってできる形を見て興味をもたせる。 ○切り抜いた形、切り抜かれた形の両方の形に着目させる。 ○一つつくったら貼るようになさせる。 写真 A 表現 (2) イ
4	1時間 6/19 (金)	表 したいことを絵や立体・工作に表す	ひかりや とうめいな ざいりょうを つかって 「ひかりの おくりもの」	○「絵本」の読み聞かせや「影絵」遊びを通して、光や影とともにだちになって遊ぶ。 ○段ボール紙やカラーセロハンで、どんなものがつくれるか考える。 写真 写真	○光を使ってつくることを知らせる。 ○光のもつ特徴を生かして、段ボール紙でつくりたい形や色を考えさせる。 写真 写真 A 表現 (2) ア・イ
	1時間 6/24 (水)			○段ボールカッターを正しく使い、穴をあけるために形にそって切り抜きを入れる。 ○友達と協力してつくったり、話し合ったりして、光と影のよさを感じる。 写真 段ボールカッターの持ち方に注意して切り抜こう。	○段ボール紙の参考になる切り抜きの見本を掲示しておく。 写真 A 表現 (2) ア・イ

	1 時間 7 / 1 (水) (本時)	材料を基に造形遊びをする	「ひかりの おくりもの」	○段ボールカッターを正しく使い形にそって切り抜く。 ○カラーセロハンを貼ったりして自分なりの色を工夫する。 ○友達と協力してつくったり、話し合ったりして、光と影のよさを感じる。 ○光や影を使い、身のまわりの場所の特徴を生かしながら、その美しさや変化を味わう。	○段ボール紙の参考になる切り抜きの見本を掲示しておく。 ○カラーセロハンの貼り方を掲示しておく。 A 表現 (1) ア・イ
	1 時間 7 / 2 (木)		「うわ～、いろいろな形と色がうつった～」 「きれいね～」 「みんなの合わせるとどうなるかな～？」 「見て見て！ハンドバックになっているよ～。おもしろいね。」	○校庭などのいろいろな場所に写して、その美しさや変化を味わったり、窓に飾ったりして楽しむ。 ○自分や友達の作品のよさやがんばりに気付く。 写真 写真	○自分や友達の作品のよさやがんばりを認め合う場面を設定する。 「すごーい！カラフルハンドバックだ～」 写真 A 表現 (1) ア・イ・ウ

2 具体的評価規準

(具体的評価規準)

具体的評価規準は、教師の主観に流されず客観的に学習の到達度の評価ができるようにするために (A)「十分満足できる」(B)「おおむね満足できる」,「努力を要する子への手だて」の三段階で作成する。

	十分満足できる(A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する子への手だて
関心 意欲 態度	○安全に気をつけながら,積極的に取り組み,自分なりに楽しく活動しようとする。	○安全に気をつけながら,自分なりに楽しく活動しようとする。	○安全に気をつけながら,自分なりに楽しく活動できるよう助言する。
発想 構想 の 能力	○光のもつ特徴を生かすことを知り,思いをふくらませつくりたいものを考えている。	○光のもつ特徴を知り,自分なりにつくりたいものを考えている。	○光について知らせ,自分なりにつくりたいものを聞きながら助言する。
創造 的な 能力	○発想やイメージをふくらませ,自分の思いに合わせて段ボール紙を切ったり,カラーセロハンを貼ったりして,つくっている。	○自分の思いに合わせて,段ボール紙を切ったり,カラーセロハンを貼ったりして,つくっている。	○段ボール紙を切ったり,カラーセロハンを貼ったりする作業を支援する。
鑑賞 の 能力	○積極的に光や影を写して,友達と作品を見せ合い,自分や友達のよさに気付いて発表している。	○友達と作品を見せ合い,自分や友達のよさに気付き,楽しく見る。	○友達や自分の作品を見て,楽しむよう助言する。

3 実践事例

(1) 実践事例1 6月19日(金)4次 第1時

① 題材名 「ひかりの おくりもの」

② ねらい

- ・「絵本」の読み聞かせや「影絵」遊びを通して,光や影と友達になって遊ぶ。

③ 学習内容

- ・光と影の内容の「絵本」の読み聞かせを聞く。
- ・スクリーンに写し出されている,いろいろな形を当てる。(クイズで楽しむ)
- ・自分の体全体を使って,「影絵」遊びをする。
- ・光のもつ特徴を生かして,段ボール紙でどんな学習をするのか知る。
- ・今日の学習の振り返りをする。



写真

光と影の内容の「絵本」の読み聞かせ。みんな光と影の形を考えながら真剣な表情です。

写真

スクリーンを使って、光に写し出されたこの影は、何かな？

写真

「みんな見て！
これは、どんな形をしていると思う？」

写真

形に沿って切り抜いた段ボール紙を光にあててみると。「うわあ、すご〜い！」

【児童のワークシートより】

- ・スクリーンに写し出されたいろいろなかげを見ていて楽しく、次の図工の時間に段ボールカッターで開けた穴にカラーセロハンを貼るのが楽しみです。
- ・光と影の絵本で、お花畑に見えていた絵が、絵本を反対にすると花火に見えました。今度この絵本を借りたいなあと思いました。
- ・光と影の絵本で、いろいろな形になっているのが楽しかったです。
- ・友達が考えたいろいろな形が、スクリーンに写り出されておもしろかったです。
- ・自分で形を考えて、みんなの前で発表できたのでよかったです。

(2) 実践事例2 6月24日(水) 4次 第2時

①題材名 「ひかりの おくりもの」

②ねらい

- ・段ボールカッターの安全な使い方を知る。
- ・段ボール紙を使って、自分の思いを広げ、形にそって切り抜くことができる。

③学習内容

- ・段ボールカッターの正しい使い方と安全について知る。

- ・段ボール紙に、思い思いの形をかく。
- ・穴をあけるために形にそって切り抜きを入れる。
- ・今日の学習の振り返りをする。

写真

段ボールカッターの使い方や形をかいて切り抜くことを知らせる。話を静かに聞くことができた。

写真

段ボール紙を、丁寧に形に沿って上手に切り抜く。

写真

思い思いに考えた形に沿って、段ボールカッターで切り抜いている。

写真

安全に気を付けて、段ボールカッターを使い、いろいろな形を切り抜く。

【児童のワークシートより】

- ・段ボールカッターで、いろいろな形を切り抜くことができた。
- ・星の形やいろいろな形をかいて切り抜いたら、上手に切り抜くことができました。
- ・段ボールカッターで、切り抜くところで難しいところもあったけど、楽しかった。

4 公開検証授業

第2学年 図画工作科学習指導案

平成21年7月1日（水）5校時
 沖縄市立越来小学校 2年2組
 男子16名 女子9名 計25名
 授業者 中村 美和子

1 題材名 ひかりや とうめいな ざいりょうを つかって
 「ひかりの おくりもの」

2 題材の目標

- ・光や影を使い、身のまわりの場所で、形や色の美しさや面白さを味わう造形遊びをする。

- ・段ボール紙などの材料を加工してつくり、自分の思いを広げる。
- ・友だちと協力してつくったり、話し合ったりして、いろいろな場所に写し、そのよさを感じる。

3 題材について

(1) 題材観

本題材「ひかりの おくりもの」は、段ボールカッターを使って、段ボール紙をいろいろな形に切り抜き、カラーセロハンで色の構成をしたり、飾ったりする学習である。光や影の造形的な美しさや面白さに興味・関心をもたせ、楽しませることがこの題材のねらいである。また、切り抜いた形から何かをイメージして、自分の思いや発想を広げて、素材の新たな魅力を感じ取ったり、形や色の美しさも味わったり、楽しく取り組める題材である。

紙は、児童にとって身近な素材であり、これまでも折る、切る、貼るなどをして作品をつくってきた。これまでに出来なかった紙の内部を切り抜くことが、段ボールカッターを使うことによってできるようになり、ますます興味をもって楽しく取り組むことができる題材である。また、次の学習で取り扱う題材「きって ワクワク めくルンルン」では、「カッターナイフ」を使っている学習へと関連づけることができる。

(2) 児童観

本学級の児童は、素直で明るく絵や立体、工作で表現することや、材料を使って造形活動を楽しむことが大好きである。材料集めの段階から意欲を持って取り組むことができ、図画工作科の時間を楽しみにしている児童が多い。自分が納得できるまで時間をかけて作品を仕上げるなど、つくる喜びを感じているようである。

ほとんどの児童は、はさみやのりの使い方の基本を身につけており、紙を切ったり丸めたりすることで形がさまざまに変化していくことも理解している。そして、自分なりの表現方法で楽しんで活動に取り組むことができる。

しかし、中には、個人的なイメージにこだわり、個人で夢中になりすぎる児童も見受けられる。ここでは、友達と十分にかかわりながら、その中で、自分が感じたことを友達に伝えたり、一緒に活動したりして、自分と友達のよさに気づけるように支援していきたい。

アンケートの結果をみると、全員が図画工作科の時間を楽しいと思っており、ほとんどの児童が絵をかくのも、工作をするのも好きと答えている。

段ボールカッターの使用に関しては、数名の児童が使用したことがあると答えているが、ほとんどの児童が見るのも初めてで、全く使ったことがないと答えている。そこで、段ボールカッターの正しい使い方を知るために、段ボールカッターの持ち方、四角や三角の形などを切り抜く練習をした。初めて使用する段ボールカッターを「怖い」と感じる児童も数名いたが、ほとんどの児童が「最初は不安だったが、切り抜いていくうちにどんどん楽しくなってきた。」と答えている。使用していくうちに段ボールカッターの使い方にも慣れ、紙の真ん中を切り抜くことに感動し、児童は、「できた！できた！」「こんな形も切り抜いたよ。」と嬉しそうに取り組んでいた。しかし、中には初めて使用する段ボールカッターを思い通りに使えず、戸惑っている児童もいたが、最後まで頑張る姿が見られた。

(3) 指導観

児童は、これまで身近にある自然物や人工の材料を手を持って動かしたり、積んだり、自分なりに意味をつけたりしながら、材料との関わりを楽しんできている。

そこで、本題材「ひかりの おくりもの」では、身近で目にしている「段ボール紙」の素材を取り上げ、段ボールカッターで「段ボール紙」をいろいろな形に切り抜いたりしていく作業をさせる。そ

して、カラーセロハンを貼り、光を通すことで、「きらきらした光のおくりもの」の体験や「楽しい形や色の世界」を感じ取らせたい。そのためには、光がさす中で素材と遊ぶ体験を十分にさせたり、光と影のコントラストからその子なりのイメージを広げてあげることが大切であると考え。

段ボールカッターを使用する際には、段ボールを切り抜く場所を決め、持ち方、手の置き方、力加減などを再度確認し、安全面に配慮したい。

また、完成した後には、校庭などのいろいろな場所に写して、その美しさや変化を味わったり、窓に飾ったりして、自分や友達のよさやがんばりを認め合う場をもち、楽しく鑑賞できるようにしたい。

(4) 基礎的・基本的事項

図画工作科における基礎的・基本的内容とは、学習指導要領に示されている目標及び内容の総体である。すなわち、表現や鑑賞の活動において必要となる技能、発想や構想の能力、知識、理解に加え、学習への興味や関心、意欲や態度と考えられる。

A 表現では、(1) ア「身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に思い付いてつくること。」、イ「感覚や気持ちを生かしながら楽しくつくること。」とある。

4 本時の指導

(1) 本時のねらい

○段ボール紙に、自分で考えた形を切り抜いたり、カラーセロハンを貼ったりして楽しくつくる。

(2) 授業仮説

○展開の段階で、材料との触れ合いやお互いの作品を見合う場を設定し、思い思いに形を切り抜いたり、カラーセロハンを貼ったりする活動をさせることによって、表現する楽しさや喜びを味わうことができるであろう。

(3) 展開 (8/9)

	主な学習活動	○予想される反応 ☆関わり合う活動	教師の支援	*評 価
導 入 10 分	1. 前時の場面を思いおこす。 2. 身の回りにあるもので、色がついているものを確認する。 3. 段ボールカッターの使い方の確認とカラーセロハンの接着の仕方を確認する。	○「キラキラ」してきれいだな。 ○いろんな色があるな。 ☆他者との関わり① ・前時で段ボール紙を切り抜いた友達の作品を見て、振り返る。 ○いろいろな形を考えてカラーセロハンを貼りたいな。 ○段ボールカッターの使い方に気をつけよう。 ☆自己との関わり② ・前時の体験を振り返る。	・これまでの学習の流れを整理しながら想起させる。 ・提示しながら確認する。 ・形を全部切り抜いた子の作品を提示することで学習への方向付け、意欲付けを図る。 ・カラーセロハンの貼り方を確認する。 ・段ボールカッターを安全に使うよう確認する。	*つくる活動に興味を示している。 【関・意・態】

展 開 27 分	4. 本時のめあてを確認する。	○もう少し形を丁寧に切り抜こう。 ○いっぱいいろいろな形を切り抜きたいな。		
	○段ボール紙に形を切り抜いたり、カラーセロハンを貼ったりして、光と影を楽しもう。 5. 自分の思いに合った形の穴を開けたり、カラーセロハンを貼ったりしてつくる。 6. 友達のよさを取り入れる。 7. 今日の学習を振り返り、自己評価する。 8. 次時予告	○違う形の穴を開けてみよう。 ○星型に切り抜こうかな。 ○他にどんな形ができるかな。 ☆物との関わり③ ・試行錯誤しながらつくる。 ○「きらきら大へんしんコーナー」を使って、自他の作品を鑑賞し合う。 ○この形、上手に切り抜いているな。 ○カラーセロハンの色が、この形にあっているな。 ○私もこの形を切り抜いてみたいな。 ☆他者との関わり④ ・試行錯誤しながらつくる。 ・友達の作品を参考にしながら、自分の作品も工夫する。 ☆自己との関わり⑤ ・自分が工夫したところを振り返る。 ○今日の学習を振り返り、次時への期待と意欲につなげる。	・段ボール紙を上手に回して切り抜いているね。 ・いろいろな形をいっぱい切り抜いているね。 ・よい造形表現を見つけたら他の児童にも紹介する。 ・カラーセロハンの色もよく考えて貼っているね。 ・丁寧に切り抜いているね。 ・友達の作品でよいところを「まねっこ」といいね。 ・段ボールカッターを安全に使うことができたね。 ・カラーセロハンの貼り方も上手だったよ。 ・次の時間は校庭に出て形と色を楽しもうね。	*段ボールカッターを安全に使い、自分の思いついた形をつくりだそうとしている。 【発想・構想】 【技能】 *友達の工夫を見たり、思いついたりしたことをもとに、切り抜きやカラーセロハンの貼り方を工夫している。 【鑑賞】 *自分のよさや友達のよさを積極的に見つけようとしている。 【関・意・態】
ま と め 8 分				

(4) 評価

○段ボール紙に、自分で考えた形を切り抜いたり、カラーセロハンを貼ったりして、色を楽しみながらつくることができたか。

○友だちや自分の作品を、互いに鑑賞し合うことができたか。

授業の様子

写真

「ひかりのおくりもの」について、いろいろな資料を見ることで光と影について理解した。

写真

身の回りにもいろいろな「ひかりのおくりもの」があり、実際に見て確かめることができた。

写真

場の設定で、「カラーセロハンコーナー」を設置し、活動の場を広げることで、スムーズに作業を進めることができた。

写真

「カラーセロハンコーナー」で、友達と教え合いながら、カラーセロハンを貼ることができた。

【児童のワークシートより】

- ・いろいろな色のカラーセロハンを考えながら虹色にしたところが楽しかった。
- ・貼り方を工夫して、カラーセロハンを貼ったので嬉しかった。
- ・切り抜いた形にカラーセロハンを貼って見てみたら、きれいな色になりそうだったので、もっと続けてやったらとてもきれいになるだろうなと思いました。

5 場所や環境が活きる年間指導計画の作成

移行期間中及び全面実施後の小学校第2学年の標準授業時数は変わらない。

そこで、新学習指導要領と今回の検証授業を踏まえ、3つの視点（①「材料や場所の活用」②「行為の展開」③「想の拡充」）を明確にして、題材選定や学習指導の工夫など、効果的な学習指導が行えるように年間指導計画を作成した。

【第2学年における年間指導計画】

月	題材名	番号	分野	学習主題	時間	学習指導要領の内容	道徳との関連
4	たのしいな	16			1		
4	いっぱいゆめいっぱい	17	絵	想の拡充	2	A 表現（2）—イ	
5	これいいかんじ (ザラザラフワフワ)	19-1	造形遊び	材料や場所の活用	2	A 表現（1）—ア	4－（1）
5	これいいかんじ (ヌルヌルヒヤヒヤ)	19-2	絵	材料や場所の活用	2	B鑑賞（1）—イ	4－（1）
6	どんどん できるよ	21-1	造形遊び	行為の展開	2	A 表現（1）—イ	2－（3）
6	どんどん できるよ (そとでもできるね)	21-2	造形遊び	行為の展開	2	A 表現（1）—イ	2－（3）
7	ひかりの おくりもの	24	造形遊び	材料や場所の活用	2～ 6	A 表現（1）—ア A 表現（2）—ア	2－（3）
7	おはなしロボット	20	立体	材料や場所の活用	2	A 表現（2）—イ	4－（1）
9	かたおしかたぬき	22	立体	行為の展開	2	A 表現（2）—イ	2－（3）
9	きょうかしよ びじゅつかん 【あつめてかざって たからもの】	23	鑑賞		2	B鑑賞（1）—イ	3－（3）
9	わっ！すごいな	18	絵	想の拡充	2	A 表現（2）—イ	
10	ざいりょうのへんしん (タワッシー)	25-1	工作	材料や場所の活用	2～ 4	A 表現（2）—イ A 表現（2）—ア	
10	ざいりょうへんしん (ウキウキウッキー)	25-2	工作	材料や場所の活用	2～ 4	A 表現（2）—ア A 表現（2）—イ	
10	ざいりょうのへんしん (へんしんさせて)	25-3	工作	材料や場所の活用	1～ 2	A 表現（2）—ア A 表現（2）—イ	
10	見て、見て、おはなし	26	絵	想の拡充	2～ 6	A 表現（2）—ア B鑑賞（1）—ア	
11	おしやれなどうぶつ	27	立体	想の拡充	2～ 4	A 表現（2）—イ B鑑賞（1）—イ	2－（3）
12	きってワクワク めくルンルン (きりこみを入れて)	28-1	工作	想の拡充	2～ 6	A 表現（2）—イ	2－（3） 4－（1）

1	きってワクワク めくルンルン (めくるとなあに)	28-2	工作	想の拡充	2～ 6	A 表現 (2) —イ B鑑賞 (1) —ア	2－ (3) 4－ (1)
2	うつして うつして	29	絵	行為の展開	2～ 6	A 表現 (2) —ア B鑑賞 (1) —イ	
2	ピョコピョコ ストローマジック	30-1	工作	行為の展開	2～ 6	A 表現 (2) —イ B鑑賞 (1) —イ	2－ (3)
3	ピョコピョコ ストローマジック (かみのしくみを つかって)	30-2	工作	行為の展開	2～ 4	A 表現 (2) —ア B鑑賞 (1) —イ	2－ (3)

6 公開検証授業の考察

(1) 検証授業の考察

- ・展開の段階で、材料との触れ合いやお互いの作品を見合う場を設定し、思い思いに形を切り抜いたり、カラーセロハンを貼ったりする活動をさせることによって、表現する楽しさや喜びを味わうことができるであろう。

○授業の評価について

「段ボール紙に、自分で考えた形を切り抜いたり、カラーセロハンを貼ったりして、色を楽しみながらつくることができたか。」

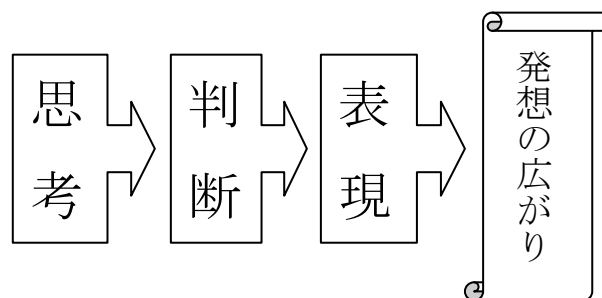
(評価方法：学習カード、行動観察)

- ・身の回りにある材料に興味・関心をもつことができた。
- ・段ボール紙を使って、自分の思いをふくらませることで、楽しみながら活動に取り組む様子が見られた。
- ・形に合ったカラーセロハンの色を考えながら貼る様子が見られた。
- ・友達の作品を見合うことで、友達のよさを自分の作品にも取り入れる様子が見られた。

(2) 研究協議会から

- ・導入の段階で、提示する資料が多く、本時の展開へのつながりが弱くなった。(焦点化)

- ・「感性を働かせながら」から考えると、「おくりもの」の言葉に焦点をあて、もっと言葉へのこだわりを追求し、発想をふくらませてもよかった。



- ・まとめで、児童の発表は感想のみになっていたが、自分の作品を持たせて、作品への思いを発表させてもよかったのではないかな。
- ・児童から発想やイメージについての思いを出させるように、また、「次はもっとどうしたい。」と思うような教師の支援が必要に感じた。
- ・児童が、材料と触れ合う中で自分の思いをどう表現していくのか、教師の言葉かけや支援の仕方での展開が変わっていったのではないかな。
- ・教師が、子ども達へどう課題を与えていくか、大切な部分である。また、「感性」の差(個人差)がある子たちを、その子なりの表現をどのようにさせていくか、教師の手立てが重要である。

- ・「学校における道德教育は、道德の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものである。」ということから、図画工作科における道德教育の指導においては、学習活動や学習態度への配慮、教師の態度や行動による感化とともに、図画工作科の目標と道德教育との関連を明確に意識しながら、適切な指導を行う必要がある。(クロスカリキュラム)

Ⅷ 研究の結果と考察

本研究はテーマを、「造形活動を楽しみ、豊かに発想をする子を育てる学習指導の工夫～第2学年の『造形遊び』の学習を通して～」と設定し、基本仮説を「図画工作科の『造形遊び』の学習指導において、材料や作品にかかわらせる工夫や、自信・意欲を高める支援を工夫することによって、豊かに発想をする子を育てることができるであろう。」とし、研究を進めてきた。更に、基本仮説を具体化した3つの具体仮説を立て、理論研究や実態調査を行い検証授業を実践してきた。そこで、具体仮説を検証することにより、本研究の結果と考察とする。

1 具体仮説1の検証

図画工作科の学習において、造形遊びの要素や学習活動・学習指導の工夫について理論研究することによって、指導の方向性が明らかになるであろう。

(1) 造形遊びの要素について

造形遊びの要素について、理論研究していくなかで、造形活動の要素としての「材料や場所の活用」「行為の展開」「想の拡充」の三つの視点が相互に関連し合うことで、造形遊びの題材が成立するということがわかった。また、「造形遊びの特徴」や学習指導要領で新たに設けられた〔共通事項〕についての内容、「言語活動の充実」など、造形遊びの要素や図画工作科において今後必要な内容について、理論研究することで、より理解を深めることができ、指導の

方向性が明らかになった。

(2) 学習活動・学習指導の工夫について

造形遊びの要素や特徴を理解することにより、学習指導の工夫(教師の支援情報)で、「子どもの活動」「子どもの様子」「子どもの気持ち」を考えた手だてや題材を意識した指導計画を立てることができた。そして、児童一人一人が身近にある材料や自他の作品にかかわらせたり、自信・意欲を高める支援や手だての工夫をすることで、児童が図画工作科の時間を楽しみにし、造形活動に興味・関心をもち、豊かな発想ができるような授業計画の方向性が明らかになった。

2 具体仮説2の検証

児童の実態把握と分析を行い、年間指導計画を見直し作成することによって、年間を見通した効果的な学習指導が行えるであろう。

(1) 児童の実態把握と分析

児童の図画工作科の授業の興味・関心についての実態を把握するためのアンケートを行った結果、学級の全児童が図画工作科の学習を好んでいることや、材料を使って造形活動を楽しむことが大好きであるという実態が明らかになった。その一方で、友達とかかわりながら造形活動を楽しむことが苦手な児童がいることも分かった。

そこで、身近にある材料や友達の作品にかかわらせたり、一人一人がのびのびと造形活動ができるような場の設定、学習展開をしたりしたことで、材料とかかわる楽しさや自分の作品を自信や意欲をもって、最後まで仕上げることができ、図画工作科の時間を楽しむことができたと考える。

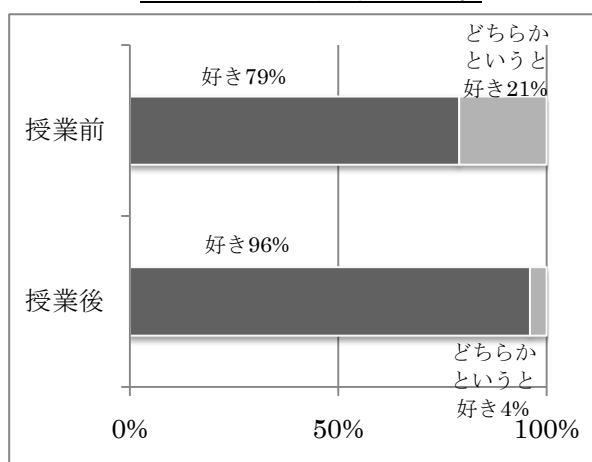
授業後のアンケートでは、「図画工作科の時間は好きですか?」の質問では、全員が「好き」と答えている。しかし、「友達と一緒に作品を

作ることは好きですか。」の質問では、友達とのかかわりの部分で、教え合うことは自分の作品ではなくなるという意識があるようで、前回のアンケートより若干増えた。

今後、他教科や道徳の時間を通して、全体の場や必要な児童に対しては、教師の支援が必要に感じた。

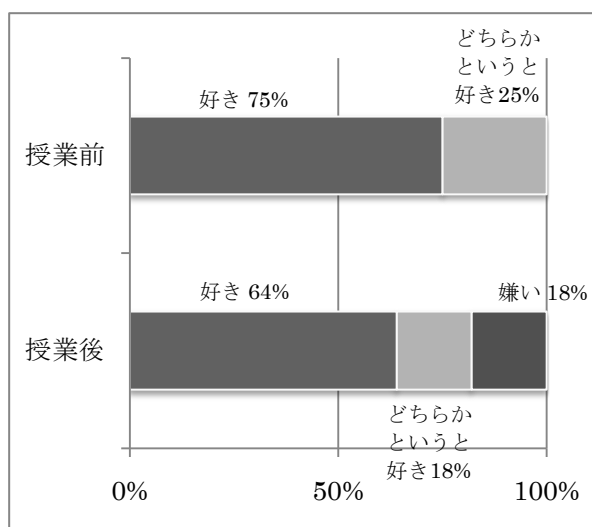
結果的に、今回の検証授業は、課題が明確になり、今後の学習活動・学習指導の工夫について考えさせられる授業となった。

問1 図工の時間は好きですか。

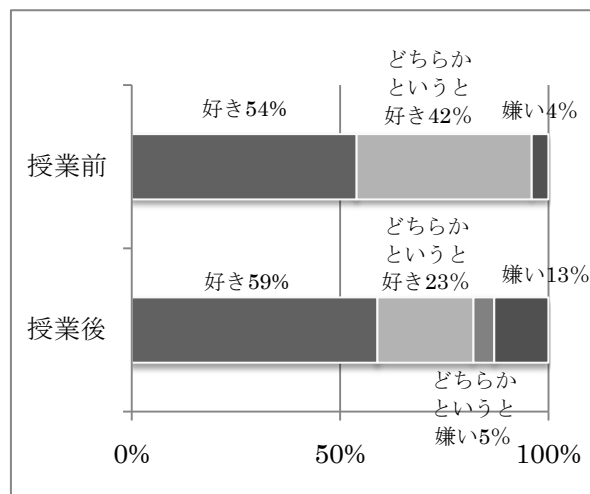


質問1では、図工の時間を「どちらかという」と好き」と答えた児童が1名となり、事前アンケートの結果に比べ、1名以外の全員が「好き」と回答している。このことから、学習前に比べ、更に図工に対して楽しく学習していることが分かる。

問5 友達と一緒に作品をつくるのは好きですか。



問9 友達に教えたり、教えてもらったりすることは好きですか。



質問5と質問9では、事前アンケートの結果に比べ、「友達と一緒に作品をつくることは好きですか。」「友達に教えたり、教えてもらったりすることは好きですか。」の問いに、18%の児童が「どちらかという嫌い」「嫌い」と答え、若干増えている。理由としては、「友達と一緒につくと、自分の作品ではなくなるから」「自分の思いが作品にできない」「真似されるのが嫌だから」「自分の作品をつくりたいから」などの理由を挙げている。このことから、自分の作品への「こだわり」を見出していることがわかった。今後も児童の自分の作品に対する思いを大切にしながら、他教科や道徳の時間とのかかわりを意識し、個に応じた学習指導の工夫、教師の支援の工夫など、様々な生活環境の中で、「友だちと一緒につくる喜び」や「友だちに教えたり、教えてもらったりする喜び」を味わえる場の設定など、これからも研究し実践していきたい。

(2) 年間指導計画の作成 (P-55～P-56)

今回の検証授業を踏まえ、年間指導計画を「材料や場所の活用」「行為の展開」「想の拡充」をポイントに見直し、検討し、作成することによって、これまで学習してきた題材のねらいや、学習の進め方が明確になり、今後の授業実践で確かめていきたい。

3 具体仮説3の検証

材料との触れ合いや活動の広がりにおいて、一人一人が自由に表現する楽しさや喜びが味わえる活動を工夫することによって、豊かに発想する子が育つであろう。

(1) 指導と評価の一体化

材料との触れ合いや活動の広がり場を設定した。まず、必要な材料や場所(図工室)を確保することから始めた。そこで、今回の検証授業では、身近にある材料を取り入れたり、図工室を活用することにより、児童の興味・関心のある態度が見られた。

毎時間、自己評価(ワークシート)カードを準備し、めあてをもたせ、「今日の学習はどうだったか。」という振り返りと、「頑張ったところ」や「工夫したところ」を気付かせていくようにワークシートに記入させた。ワークシートを取り入れることにより、自分の振り返りと気持ちを気付かせることで、次時への学習に期待をもち、ワークシート記入に関しても意欲的に取り組んでいた。

【児童のワークシートより】

- カラーセロハンで、いろいろ考えて虹色にしました。
- ぼくは、まるの形をたまごがたにしたり、へんなダイヤの形を考えました。
- カラーセロハンを貼って、光をあてたので楽しかった。

診断的評価によって、児童の実態把握ができ、実態に応じた授業計画を立てることができた。次に、形成的評価を行ったことで、個々の課題に対しての支援や指導が効果的に行えるとともに、教師自身の授業の仕方を振り返り、授業を改善していくための手がかりとなった。

具体的評価規準を作成したことで、客観的な学習の到達度の評価ができた。また、毎時間ごとの評価項目を決めた評価記録簿を作成した

ことで、評価することに追われることなく指導と評価の一体化が行えた。

【創造的な技能】の評価では、検証授業前、「十分満足できる」(A)と評価した児童が68%で、「おおむね満足できる」(B)と評価した児童は32%。「努力を要する」(C)の児童は0%であった。検証授業後は、「十分満足できる」(A)と評価した児童は78%で、「おおむね満足できる」(B)と評価した児童は22%であった。「努力を要する」(C)の児童は0%となった。この評価から、教師が学習活動・学習指導の過程の中で、その場に寄り添い、支援することにより、児童は、やりたいことを成し遂げるために、また自分の思いを実現するために創造的な技能が発揮されたのではないかと考える。

【発想・構想の能力】の評価では、「十分満足できる」(A)と評価した児童が68%で、「おおむね満足できる」(B)と評価した児童は32%であった。検証授業後は、「十分満足できる」(A)と評価した児童は87%で、「おおむね満足できる」(B)と評価した児童は13%であった。「努力を要する」(C)の児童は授業前・後0%となった。この評価から、感じたことや考えたことをもとに、児童は思いをふくらませ、つくりたいものと考えて活動しているのではないかと考える。

【関心・意欲・態度】や【鑑賞の能力】の評価項目についても同様に進めていった。更に、前時の評価をもとに、支援を必要とする児童へ声かけを行った。

「意欲・関心・態度」や「発想・構想の能力」「創造的な技能」を培う学習指導の工夫と実践により、検証授業前と後では、題材への興味・関心や図画工作科への学習意欲、作品に対する思いなど、児童の変化が見られた。今後、さらに題材・教材選定、学習指導の工夫の研究を進めながら、一人一人の能力に合わせたより良い授業展開を行っていきたい。

(2) 材料や作品と関わらせる工夫

- ・材料とかかわる工夫として、図工室を「段ボールカッターコーナー」「カラーセロハンコーナー」にわけ、活動に応じたそれぞれの場を設定することで、安全面に配慮し、児童の活動がスムーズに行えるようにした。
- ・作品とかかわる工夫として、「プロジェクター」や「スクリーン」、「OHP」を使用したり、実際に「作品コーナー」を設定するなど、児童が自分や友達の作品を楽しんだり、児童が作品を工夫・改善できるようにした。

写真

写真

- ・子ども達の興味・関心を持たせるような材料や題材選定について研究することで、子ども達のいろいろな思いをふくらませることができた。
- ・子どもがのびのびとした発想が広がるような場、自由な雰囲気の中で主体的に活動できるような場の工夫ができた。
- ・造形遊びの過程の中で、一人一人の個に応じた指導と評価の一体化の工夫ができた。

写真

写真

IX 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- ・図画工作科の学習指導において、題材の設定を工夫することで、造形活動を楽しみ、子ども達一人一人が意欲的に取り組むことができた。
- ・材料との触れ合いや活動場所の確保をすることで、のびのびと自由に自分の思いをふくらませながら、活動することができた。
- ・授業の導入において、資料提示の工夫（身近にある「ひかりのおくりもの」）を行ったことで、子ども達は題材に興味や関心をもって取り組むことができた。
- ・出来上がった自他の作品を振り返る場を授業の中で設定することで、自分の作品の工夫、友だちの作品のよさを見つけることができた。

2 今後の課題

- ・発想を広げる教師の支援として、言葉かけや子どものよさに気づき、活動を振り返ったりできるような支援の工夫。
- ・図画工作科の目標及び年間指導計画作成による、道徳教育の全体計画との関連、指導の内容及び時期等に配慮した適切な学習指導の工夫。

【主な参考・引用文献】

- ・文部科学省（平成20年8月）『小学校学習指導要領解説 図画工作編』 日本文教出版社
- ・藤江 充，岩崎由紀夫，水島尚喜 編著 H20 告示新学習指導要領解説
『形・色・イメージ+これからの図画工作』 日本文教出版社
- ・藤江 充，辻 政博 編著 平成20年版『小学校学習指導要領 ポイントと授業づくり 図画工作』 東洋館出版社
- ・板良敷 敏，阿部 宏行 編著 平成18年『図画工作の指導と評価』 東洋館出版社
- ・図画工作 1・2下 平成17年『教師用指導書上巻 研究編』 日本文教出版社

